

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	特別活動
科目基礎情報						
科目番号	109020			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 0	
開設学科	電気情報工学科			対象学年	2	
開設期	通年			週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材						
担当教員	柳井 忠,安里 光裕,松田 一秀,佐伯 徳哉,平田 隆一郎					
到達目標						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
社会性 (F)						
教育方法等						
概要						
授業の進め方・方法						
注意点						
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	クラス別活動			
		2週	クラス別活動			
		3週	クラス別活動			
		4週	学外研修事前研修			
		5週	学外研修事前研修			
		6週	学外研修－別子銅山臨地研修			
		7週	学外研修事後研修			
		8週	クラス別活動			
	2ndQ	9週	学科別活動			
		10週	主事講話			
		11週	円滑な人間関係を育むための講話			
		12週	喫煙が身体に及ぼす影響についての講話			
		13週	応急救置学習訓練			
		14週	女共同参画講話			
		15週	クラス別活動			
		16週	クラス別活動			
後期	3rdQ	1週	学生表彰式			
		2週	クラス別活動			
		3週	クラス別活動			
		4週	交通安全指導			
		5週	クラス別活動			
		6週	T O E I C - B r i d g e			
		7週	クラス別活動			
		8週	クラス別活動			
	4thQ	9週	卒業生講話－学科別活動			
		10週	クラス別活動			
		11週	クラス別活動			
		12週	クラス別活動			
		13週	学科別活動			
		14週	命と生き方に関する講話			
		15週	クラス別活動			
		16週	クラス別活動			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	専門的能力の実質化	共同教育	共同教育	クライアント（企業及び社会）の要求に適合するシステムやプロセスを開発することができる。	3	
				企画立案から実行するまでのプロセスを持続可能性の実現性を配慮して実行することができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識・教養が、企業及び社会でどのように活用されているかを理解し、技術・応用サービスの実施ができる。	3	

				地域や企業の現実の問題を踏まえ、その課題を明確化し、解決することができる。	3		
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などの必要性を理解できる。	3		
				技術者として、生きる喜びや誇りを実感し、知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践創造的な活動を楽しむことを理解できる。	3		
				技術者として、社会に対して有益な価値を提供するために存在し、社会の期待に十分応えられてこそ、存在の価値のあることを理解できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3		
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3		
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3		
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3		
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3		
				ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	3		
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	3		
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	3		
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	3		
				複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	3		
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3		
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3		
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3		
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3		
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3		
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3		
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3		
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3		
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3		
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3		
				法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	3		
				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	3		
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会的な在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3		
				技術の発展と持続的社会的な在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0